

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アートチャイルドケアSEDスクール岡山早島Plus+		
○保護者評価実施期間		2025年 10月 15日	～ 2025年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間		2025年 10月 15日	～ 2025年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間		2025年 10月 15日	～ 2025年 10月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	2	(回答数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 7日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種で支援ができる。	・多職種で多角的にお子さまの特性を捉え、様々な視点から支援内容を相談、検討している。	・多職種それぞれの知識や見解を共有し、多様な視点を生かした訪問支援を実施する。
2	保育園と連携が図りやすい。	・訪問先、保護者の思いも汲み取りながら、お子さまの特性を理解した上で関わり方や環境設定について共有している。また、お子さまの状況や支援内容についても訪問先と十分な話し合いの時間を設け、悩みに寄り添った支援を行っている。	・今後も訪問先との関係性をさらに深めていく、支援者がみな同じ支援の方向性で関わっていく。
3	児童発達支援と併用で利用していただくことで、継続した支援が提供できる。	・お子さまの特性を理解し、訪問先での様子や困り感を把握することで、支援についての手立てを見出していく、それを療育に生かせることができる。また、統一した支援の提供ができる。	・併用の強みを生かし、お子さまが訪問先での生活においても自分らしくのびのびと過ごせるように、様々な活動の経験が積めるよう支援していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問の機会が少ない。	・多機能型事業所として運営しているため、限られた人員の中で訪問予定の調整や訪問対応を行う必要がある。	・適正な人員配置に努め、専門性を生かした訪問支援を実施していく。
2	保育所等訪問支援が保護者に浸透していない。	・事業そのもののや事業の効果が十分に周知できていない。	・啓発活動を行い、訪問先への事前説明を丁寧に行っていく。